キーホルダーの導き

藍色草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キーホルダーの導き

【Ｎコード】
Ｎ９３６６Ｆ

【作者名】
藍色草

【あらすじ】
「ありがとうございました。・・・よい旅を。」店員のこの言葉で始まるトリップファンタジー。シリアスっぽいところもあったりするかも！？な基本ラブコメ。乙女・・・否、乙女ではないような気もする四人のヒロイン達が周りの人を魅了していく！！！というとにかくごちゃごちゃした物語。

ヒロイン達のプロフィール

＊＊青山（アオヤマ）　累（ルイ）＊＊

歳：１６歳

キーホルダーカラー：青

性格：冷静・主につっこみ・自分のコトに関しては鈍感・しつこいやつは嫌い。

容姿：格好良い・茶髪・こげ茶の目・身長１７３ｃｍ・体重は××ｋｇ・日に焼けている。異世界では男装。

備考：久流美とは親友。

志木葉学園に通っている。

＊＊赤井（アカイ）　久流美（クルミ）＊＊

歳：１６歳

キーホルダーカラー：赤

性格：天然で明るい・ポジティブ・かっこいい女性にあこがれている・累のコトとなると人が変わる。

容姿：可愛い・赤茶色の髪・身長１４６ｃｍ・体重は××ｋｇ・白め。

備考：累とは親友で、累っ子。

志木葉学園に通っている。

＊＊柴田（シバタ）　サクヤ＊＊

歳：１６歳

キーホルダーカラー：紫

性格：ナルシスト・可愛いものが大好き・目立つことが何よりの喜び。

容姿：中性的・金髪・青・つーかハーフです・身長１６８ｃｍ・体重は××ｋｇ・白色系。異世界では男装。

備考：累を（女子相手の）ナンパに誘うがいつも久流美に邪魔される。

香華学園に通っている。

＊＊黒崎（クロサキ）　美奈（ミナ）＊＊

歳：１６歳

キーホルダーカラー：黒

性格：黒魔術が大好き・発言が腐女子（っぽい）・でも実はピュアなんです。

容姿：いつもフードをかぶっているけど本当は美人・黒髪黒目・身長１５６ｃｍ・体重××ｋｇ・青白。

備考：美奈がこんなふうになったわけはまだ秘密。美奈はいろいろな面で強い。

香華学園だが、現在登校拒否中。

第一話

『お買い上げありがとうございます。・・・よい旅を。』

パアァァッッ

「へっ??・・・ここどこ?・・・ってうわっ!!」

第一話・目の前には剣先が。

「おい。いい加減白状しろ。」

だから、何のコトだよ、セレナンデスカ国のスパイって。

もう、本当にしつこいなぁ！！老いぼれの癖に、よくそんな大声出せるよな、そこだけは尊敬するよ。

「だ～か～ら～、ナンデスカ国？とか言うださい名前の国なんて知らないっていってるでしょう？」

「っ！ふざけるな！！まぁダサいというのは共感できるが！！優しくしてやればいい気になりおって！・・・よかろう。相手をしてやる。この私の剣の餌食になるがよい！！」

・・・わぁ、コノ人自分のみで話し進めてるよ・・。（つーか優しくないし。共感しちゃってるし。）

まあ、コノ人強いらしいし？相手してやってもいいかなぁ、・・・いい加減キレそうだったし。

「いいよ？俺用の剣は？」

「これを使え。お前のような餓鬼にはもったいない一本だが、くれてやる。・・・まぁ、どうせすぐ帰ってくるだろうがな、クックック」

ポイッ

投げられたのは日本刀っぽいもの。本物の剣かぁ・・。初めて使うな。（老いぼれの台詞（セリフ）はあえてスルー）

「さぁ、掛かってこい！！私はこの国で2番目に強いホルルック卿だ！お前のような餓鬼など、返り討ちにしてやるわっ」

餓鬼、ねぇ。その餓鬼に負けたらアンタ、恥ずかしいどころじゃすまないよね。

クスクス・・・

よし、殺るか。（物騒だな、オイ）

第二話

『ホルルック長官、頑張ってください！』

「・・・この私が負ける、とでも思っているのか？」

『す、すみません』

うわっ

応援してくれたのになにあの態度。最悪。

「早く始めよーぜ？

・・・ホル・・・えーっと、ホルモン、卿？」

第二話・ホル何とか＋剣＝長官

『ホ、ホルモン！？長官に向かってなんて事を！』

『ブッ、アイツ、面白いこと言うじゃねぇか』

『オ、オイ、長官に聞こえたら・・！！』

「あれ？違った？何だっけ。」

「なっ！？この私の名を・・・！！」

密かに応援の声も聴こえる。

『あいつ、いってくれんじゃねーか！！』

『いっそのこと、長官も倒してくれたらなぁ・・。』

『が、頑張れーー！』

倒すよ。つーか殺る。（だから物騒だって）

『無理だろ。長官はあれでもこの国、ホタヤル王国のＮＯ．２だぜ？！』

ＮＯ．２って・・・ホストみたいだな。まぁ、もっともこのジジイがホストのＮＯ．２だったら・・・ヤ、ヤバ、考えんのやめよう。マジで吐く。

・・つーか無理って！！ふざけてるな。俺が負けるわけ無い。

・・・でも、ＮＯ．１って誰だ？

『まぁ、長官が負けたって、王子に勝てるやつはこの国には居ないよな』

『ああ。なんたって俺達の憧れだからな』

ＮＯ．１って王子様かぁ。

王子様ってそんなに強いのかぁ！？

・・・ヤベ、会ってみたい。王子様とか、超あこがれるんですけど！素敵な人だったらどうしようっ！

ハッ

あ、危ない・・。ときどき我を失うからな、俺。気をつけねぇと。

ま、最初はこいつから。

Ｎｏ．２の実力、見せてもらおうじゃねぇか！！

第三話

「まぁ、お手柔らかに。ホルモン卿」

「またしてもホルモン卿と・・・！！餓鬼がぬかしおって！！ハッッ、良かろう。お前が勝ったあかつきには、この長官の座を渡そうじゃないか！！」

第三話・そんな座いらねぇ、金をくれ

「いらねぇ。そんなもんより、金がいーなぁ・・。」

「フン。よし、オマケに１００００００Ｒ（リュタ）やるわ。これでどーだ！！」

『な！１００００００Ｒも！？城ひとつ買えるじゃねーか！！』

何！？城ひとつ？？！

「よし乗ったぁ！！」

「まぁ、勝てないだろうがな、コチラが勝ったあかつきには、その首、切り落としてやる！！」

「出来るもんならやってみなっつの。なぁ、ホルモン卿」

「このクソ餓鬼がぁぁああ！！！」

・・・・・・

では、長官と挑戦者・・「累だ」・・・ルイの決闘を始めます。

始めっ！！

この審判の合図とともに俺はサッと長官の懐にもぐり剣先を喉元に突きつけた。

てか、早ッッ！

俺すげ――！！

「勝負あり、だな。」

「くっ・・・」

『ちょ、長官が負けたぁ！？うそだろ！？？』

あ？見りゃわかんだろ。ホルモンは俺に負けたんだよ。ハハッ（ヒドイ）

『早すぎじゃね？！』

まぁ、呆気なかったよな・・

『アイツ、強い・・・』

そりゃあ、俺だもん。

『あんなガキに！！』

うんうん、こんな餓鬼に・・・ってオーイ！！

「・・・おい、そこの。さっき、俺の事餓鬼って言っただろ。こい

つが負けたってことは・・・

今からおめぇらの長官は俺なんだぜ??そこ、わかってて言ってんの?」

『あ』

『『『ギャーーーーーーーー!!!すみませんでしたぁあーーーーーーーーー!!ど、どうかお許しをーー!!』』』

一部を除き、皆一斉にオレに土下座してきた。この国でも土下座ってあるんだなぁ。(しみじみ)

「・・・あのなぁ、そこの元長官がどんな風にお前らに接してたか知らねぇけどさー。

別に俺はお前らに手を上げたりとかしない。だから、気楽に行こうぜ?いつもこんなんじゃ疲れんだろ、もっとリラックスしなって。」

オレがそういった途端、確かにみんなの態度が変わった。

悪いほうに。

『で、でも・・・』

『すみません、そんなことじゃいけないので』

『別に仲良くなる気なんてねーんだろ』

『そうそう、いままでもそうだったしな、今更別に必要ねぇよ』

な、何だ・・？急に皆、冷たい目をして・・・。何で？

「は？なに言ってんだよ、オレは皆と仲良くなろうと、」

『何？俺等と仲良くなる振りして言うこと聞いてもらおうって魂胆？ハッ、くだらねぇ。おい、帰るぞ。・・・テメェはホルルック元長官にでも聞けば？』

『はい、レツさん。』

『今日の晩飯は何かなーっと』

皆ホルルック卿（知ってた）とオレをおいて去っていった。

・・・・・・こいつ等・・・・・、何があったんだ？

第四話

はぁ、どうすりゃいいんだ。

オレは長官室でため息をついた。

結局ここのことはよくわかんないし。皆、オレを避けるし。

第四話・い、痛い・・・。ってそんなことより！！

「あーもう！どうしろっつーんだよっ！」

「ひ・・っっ」

「あ？・・・誰？」

「あ・・・あの、み、身の回りのことをさせていただきます、イザック、と申します。よよ、よろしくお願いします！！」

「あ、ああ！よろしくな！イザック。」

こいつはオレのことを避けたりしないみたいで良かった。

「あ、あの、食事はされましたか？も、もし、よろしければもってきますけど。いい、いかがなされますか？」

「あ、じゃぁ頼む。」

うん、こいつ、いい奴っぽいな。

「は、はいぃぃ！！！」

・・・どもりすぎだけど。

「あ、あそこのドア、浴室ですけど、にゅ、入浴されますか？」

「あぁ、汗もかいたし入るか。イザックって、気が利くな」

「い、いえ。ぼ、僕なんかぜんぜんでっ、えと、あとで麻布と着替え持ってきますねっ！で、では、失礼しましたぁあっっ！！」

面白い。どもってて普通はウザいんだけど、こいつはどもりすぎて

て逆に面白い。

よし、入るか。

・・・・・・・・・・

「はぁーーーっ！いいお湯だなぁ、シャワーがないのはちょっと不便だけど。・・・ここってどこなんだろ、やっぱり・・・寂しいな・・・。クルミはどうしてるんだろ・・・。」

クルミ・・・・・・・

オレがいないからってそこらへんで族をつぶしまわったり暴走族と走ってなんかないよな・・・？・・・・・・・うん、充分ありえるな。

ま、まずは風呂から上がるか。

タオルタオル・・・あ、イザックが持っ「ル、ルイ様、入りますよお・・・？」

えぇっ！？ツルッ　ゴッ　ビッターン！

いってー！な、なにが起こったんだ！？えーっとイザックの声に慌てて、浴槽からすべり落ちて、（浴槽の淵に足をかけていた）床に頭を打ち、そのまま後ろに倒れたのか。

・・・？あれ、何で慌てたんだ・・・？オレは今風呂に入ってて・・・、「ルイ様！？なにかあったのですか！！？」

マズイ！オレ・・・今裸だ！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9366f/

キーホルダーの導き

2010年11月10日10時46分発行